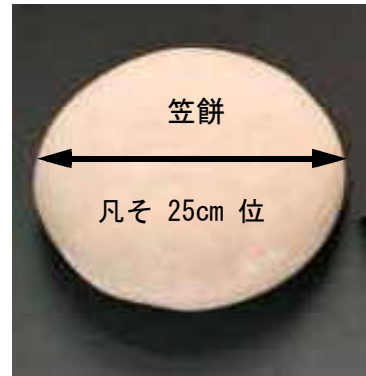


忌明け餅(四十九餅)

【中陰】

死後 49 日目を、中陰明け、満中陰、忌明け、ヒアケなどといいます。葬儀後は四十九日まで七日ごとに法要が営まれます。昔から死者の家では故人の冥福を祈って身を慎む「服喪」の慣習があります。「忌中」「喪中」「中陰」というのがそれで、死人が成仏するまでの間オコモリをする期間のことであったといいますが、身心を浄め、生きる本質や生命の尊さを心に止め、亡者の冥福を祈る期間です。逆に喪家の人々がその間に心の整理や残務処理ができるようにそっとしておいてあげようといった、周りの人々の暖かい心根が現れているように思われます。そして、この服喪期間が終了することを忌明けといい、中陰が終わると考えられた四十九日目と重ね合わされて、大切な供養の日ということになったのです。故人に縁の深い遺族や近親者が集まって、満中陰法要を営みます。

そのあと、一同膳につきます。必ず、ナマグサをつけます。精進落としです。したがって、この日までは遺族は精進料理を食し、酒を慎み、享楽に耽ることを控えるのが慣習です。



【忌明け餅】

精進落としの膳を食す前に、忌明け餅を食し、故人との喰い別れを行います。

忌明け餅は、満中陰法要を勤める朝、一臼の餅をつき、臼の全体の三分の二位を 49 個の小餅に丸めます。

残りの三分の一を笠餅といって、直径 25cm 位の大きさの丸い盆の様な薄くて丸い餅にもみます。

その 49 個の小餅を丸いお盆に盛り、49 個の餅を覆う様に笠餅をのせます。

四十九餅は、満中陰法要が始まる前に祭壇にお供えをして、法要終了後、お坊さんに切っていただきます。

餅を切るのに、「1 升杵・太根・モロヅタ・丸盆・半紙 (人数分) と 包丁」が必要です。また、数個の小皿に「食塩」をご用意下さい。



お手伝いの方も、臨終から葬儀終了までは中陰です。葬儀終了までは精進潔斎でお手伝いいただき、葬儀終了時、「忌明け餅」を食して、お手伝いの方々に中陰からあけていただくき、精進落としの膳に着いていただきます。